

日本環境教育学会第 08-1 回運営委員会議事要録

2008 年 5 月 11 日（甲南大学東京ステーション）

出席者／小澤、朝岡、阿部、井元、諏訪、戸田、原田、樋口、比屋根、福井、本庄、見上、湊、山田、佐島、小堀、小川（敬称略）

1. 第 07-4 回運営委員会議事要録の確認について（省略）

<報告事項> 2. 2008 年度大会について 韓国環境教育学会から会長以下十数名来日し、大会行事の他に前日に学習院大学との共催シンポジウムを行なう。大会発表締切後、入会申請者に対して仮会員番号を発行。5 省への後援依頼を準備。3. 退会者の確認 23 名。4. 共催・協力・後援・協賛等の依頼（6 件）5. 除籍者の確認 個人的に連絡が取れる人には、意思を再確認してもらう。6. その他（なし）

<協議事項> 7. 新入会員の承認 44 名が承認された。8. 研究奨励賞の実施方法の見直しと告知 「優れた教育実践」も奨励賞の対象とし、早々に公募する。9. 各委員会・担当からの報告 (1) 編集委員会から：38 号は、プロジェクト研究「東アジア」と一般から 3 本があり、6 月上旬の入稿を目指し、夏の大会の前には出す。37 号で執筆要項の改訂を掲載したが、執筆要項を掲載するかどうか、参考文献のページを掲載するか等、再度編集委員で検討。(2) 広報委員会から：ニュースレター 82 号の予定を報告。印刷費・通信費の削減に向け、学会誌にニュースレターを組み込むことを検討。学会誌・ニュースレターの役割等を考えると、未だ議論の余地があり、当面は合本せずに学会誌にニュースレターを同封することで通信費を削減することにした。(3) 企画委員会から：ネットワークの構築は、各委員会、支部の実践事例をデータベース化していくなど、段階的に行なう。2008 年度大会での講習会の企画を早急にまとめる。(4) 国際交流委員会から：田んぼの環境教育国際会議を昨年に引き続き、今年、来年と行なう。韓国・米国を始め、台湾等、他国の学会との連携を強める。(5) イノベーション担当から：WEB サイトのデザインについて。10. プロジェクト研究について これまでの「環境教育ガイドライン」「ESD」に加え、「オルタナティブな開発と環境教育（仮）」「アジアの地域研究（仮）」の 2 本が追加された。11. 選挙制度及び規約改正に向けた検討について 規約改正に向け、一般会員から 2 件の質問があった。規約改正の経過を運営委員会で確認し、ニュースレターにおいて会員に分かりやすい表現で説明することとした。12. 20 周年記念事業について ①国際シンポジウム（2007～2009 年）を行なう。②記念大会を 2009 年に繰り上げ東京近郊か清里で実施する。（2010 年の大会は地方で行なう予定）③2010 年をめどに記念出版を行なう。④2010 年までに国内外の学会との共同シンポジウムを企画し、海外の学会との交流協定を締結する。⑤2015 年までに全ての地区に支部を設立する。13. 2009 年度大会について（前述）14. 2008 年度総会の準備について 7 月の常任運営委員会までに予算案と報告資料を作成する。15. 過年度報告要旨集のデジタル化と在庫の処分について 大量に在庫を抱えている要旨集を第 19 回大会での販売を最後に中止し、データ化、コピーサービスを行なう。16. その他（なし）17. 次回運営委員会について 2008 年 8 月 1 日（日）10：00～11：30（学習院女子大学）。（常任運営委員会は 7 月 12 日）